

R4 全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (理 科)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	改善状況
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの生き物に対する興味・関心に個人差がある。 ・観察や実験の結果が、その単元で押さえなくてはならない内容の理解に結び付いていないときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生き物に興味をもたせるような実物や映像を見せるなど導入を工夫する。 ・結論を導くという科学的な見方・考え方を定着させるため、予想を立てる・実験観察を行う・結果を比較するについて、それぞれの着眼点を提示する。 	○ ○
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や植物、昆虫などの自然観察をして、まとめる力を育むこと。 ・結果を整理し、実験結果の考察をまとめる力を伸ばす指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察を通して、自然事物の変化を見付ける能力を養うために、継続的な観察を行い、具体的な視点を提示する。 ・結果を整理し、結果の考察を書かせる機会を増やす。また、モデルを示したり、児童の考察を紹介したりする。 	○ ◎
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を整理し、実験結果の考察をまとめる力を伸ばす指導。 ・時期、天候などで用意できないこともある生物の単元など実物を使用し体験的に実験観察をさせる指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記入方法を共通化するとともにまとめる時間を十分に確保する。 ・飼育、栽培方法を研究すると同時に視聴覚資料を充実させ、活用できるようにする。 	○ ◎
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の結果から科学的に考える力を伸ばす指導。 ・予想から結論まで自分の言葉で考えて書くことができるが、今までの学習や生活の経験に結び付けて理由を書いたり、話したりすることができる力を伸ばす指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的な視点から、観察・実験を行い、結論を導く能力を養うために、児童相互の考えを伝え合う場を意図的に設ける。 ・実験や観察を基にした話し合い活動や、考察を丁寧に指導し、結論を導き出せるよう積み重ねていく。 ・既習の内容を想起させる言葉掛けをする。 	○ ◎ ◎